

美しく咲かす栽培のポイント

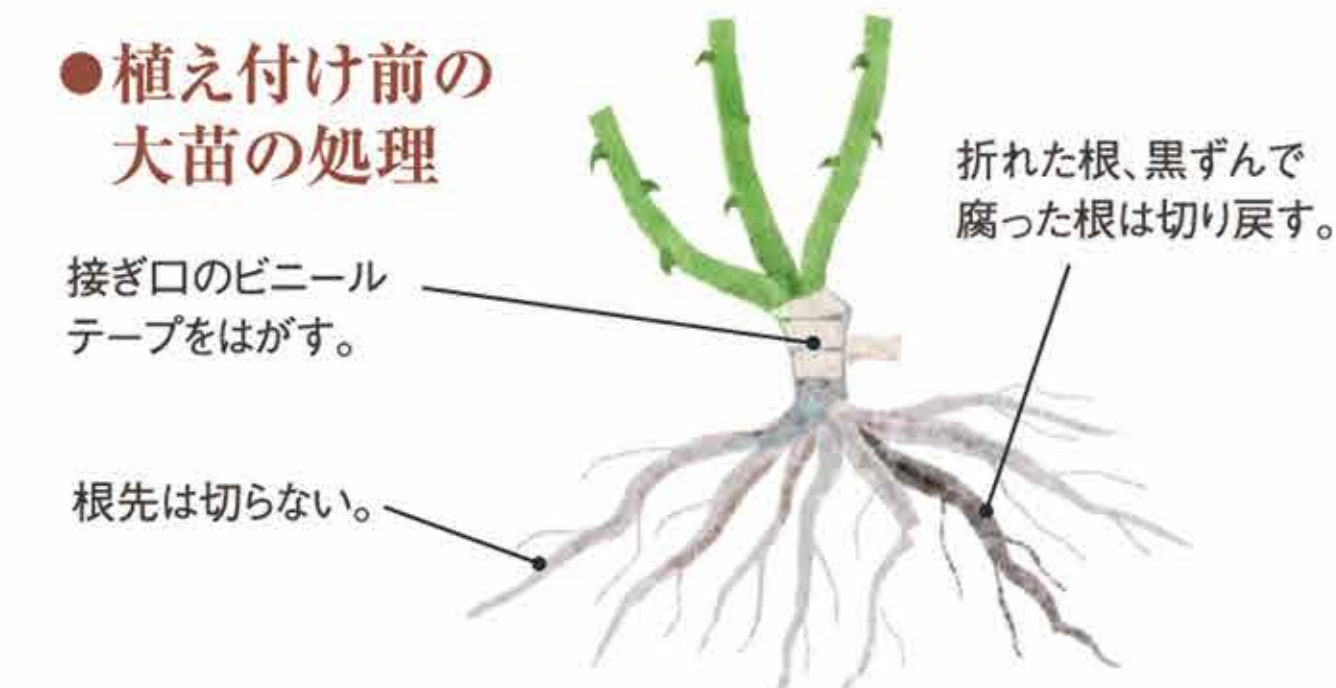


大苗の植え付け

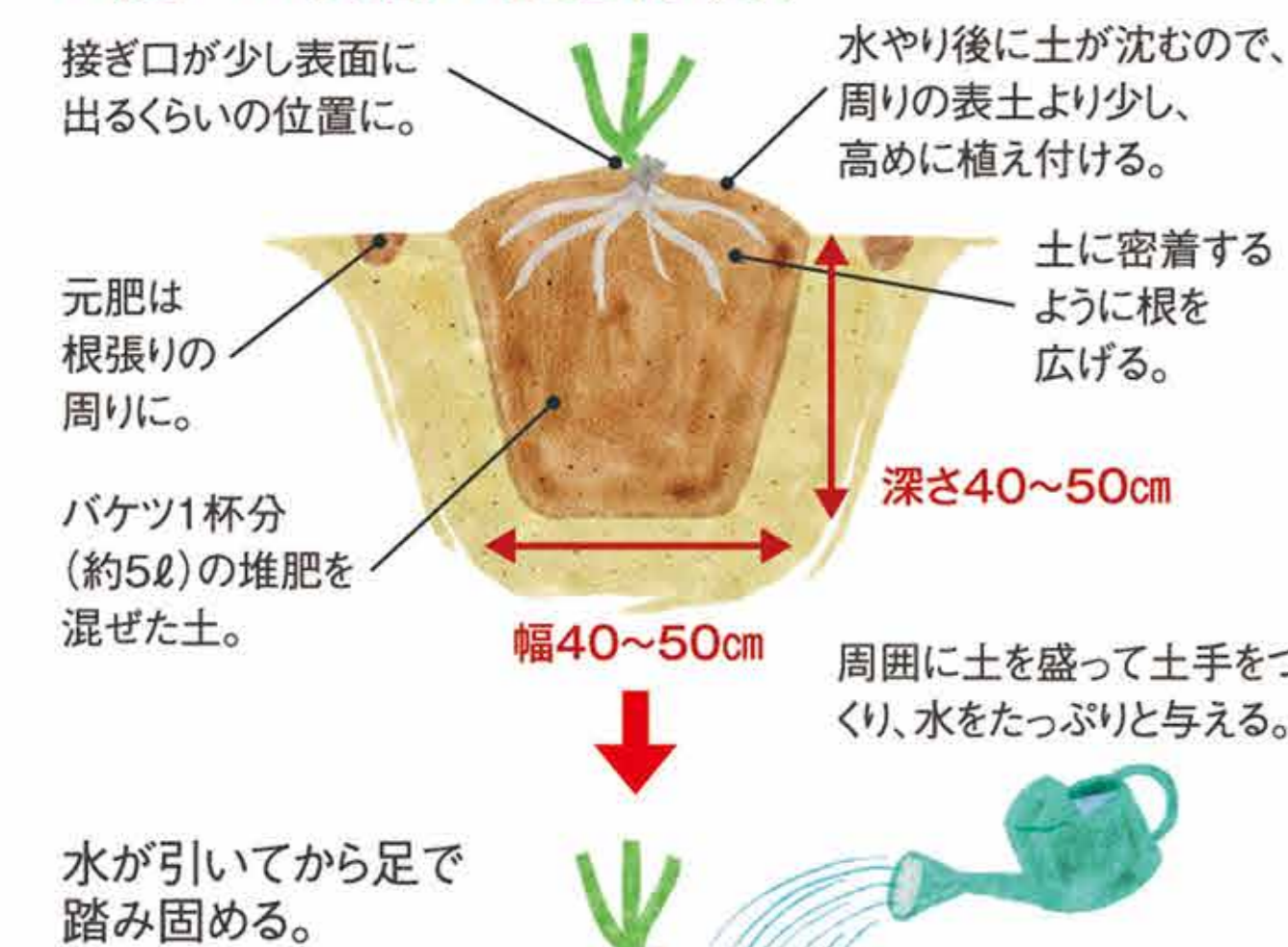
庭への大苗の植え付け

植える場所は、半日以上日が当たる場所を選びます。植え穴を掘って小石など異物はとり除き、堆肥などの有機物(バケツに1杯くらい)を振り上げた土に混ぜ込みます。

穴の中に有機物の混ぜた土を半分くらい、中央が高くなるように盛り、その上に苗を植え付けます。その際、根を広げて少し押さえ、土と根が密着するように土をかぶせていきます。また苗の接ぎ口



●庭への大苗の植え付け方



活力剤・活性液を上手に活用する

地植え・鉢植えともに、植え付け後に「活力剤」「活性液」と呼ばれる園芸用品を活用することで、その後の生育がスムーズになります。



オススメ
資材!

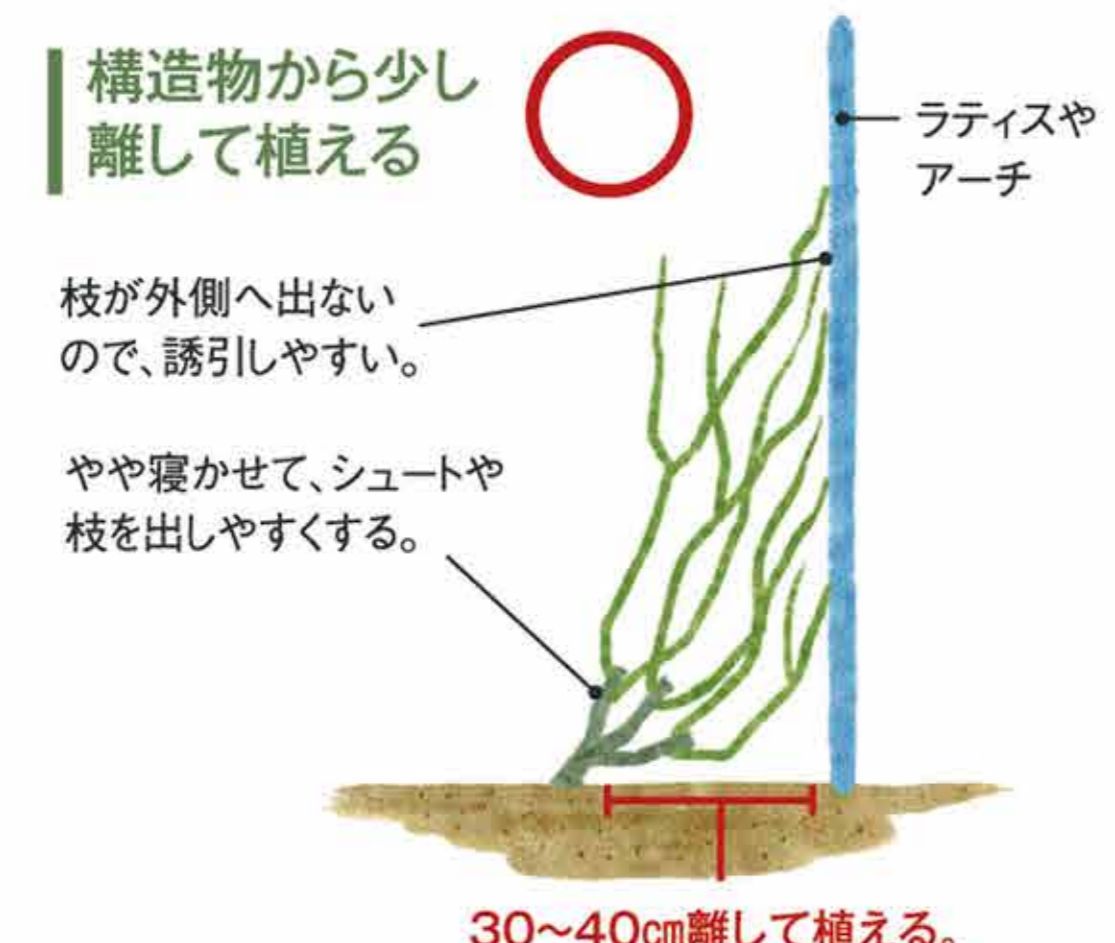
植物活力素
メネデル®
バラの植え付け・植え替え時に使うと、その後の根の生長を助けます。

が少し表面に出るようにし、全体にやや高植えにしましょう。最後に、根を土に密着させるため水をたっぷりと与え、水がすっかり引くのを待って足で株の周囲を踏みかためます。

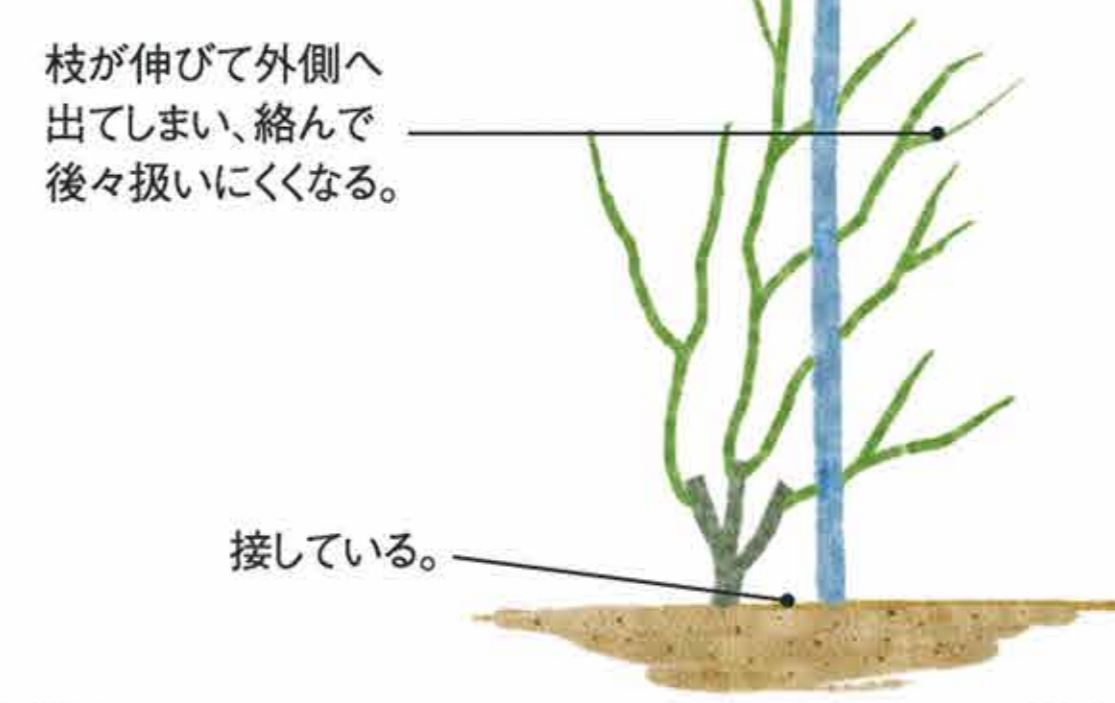
最近では出荷元のナーセリーによって苗の状態がさまざまなので、元肥は植え穴の底に与えるより、株の周囲に与えるのが主流です。株の周囲に深さ10~20cmくらいの溝を掘って、油かすや骨粉など、ゆっくりと効く有機質肥料を200~600g与えておきます。寒い時期なので霜で株が浮き上がらないよう、パークチップや堆肥でマルチングしておきましょう。

つるバラの植え付けは構造物から離す

庭につるバラを植え付ける場合は、構造物から必ず30~40cm離すことが大切。構造物のすぐ際に植えると、そこから伸びた枝が構造物の外側に出てしまうためです。少し株を寝かせて、シュートが出やすくしましょう。



構造物に接して植える

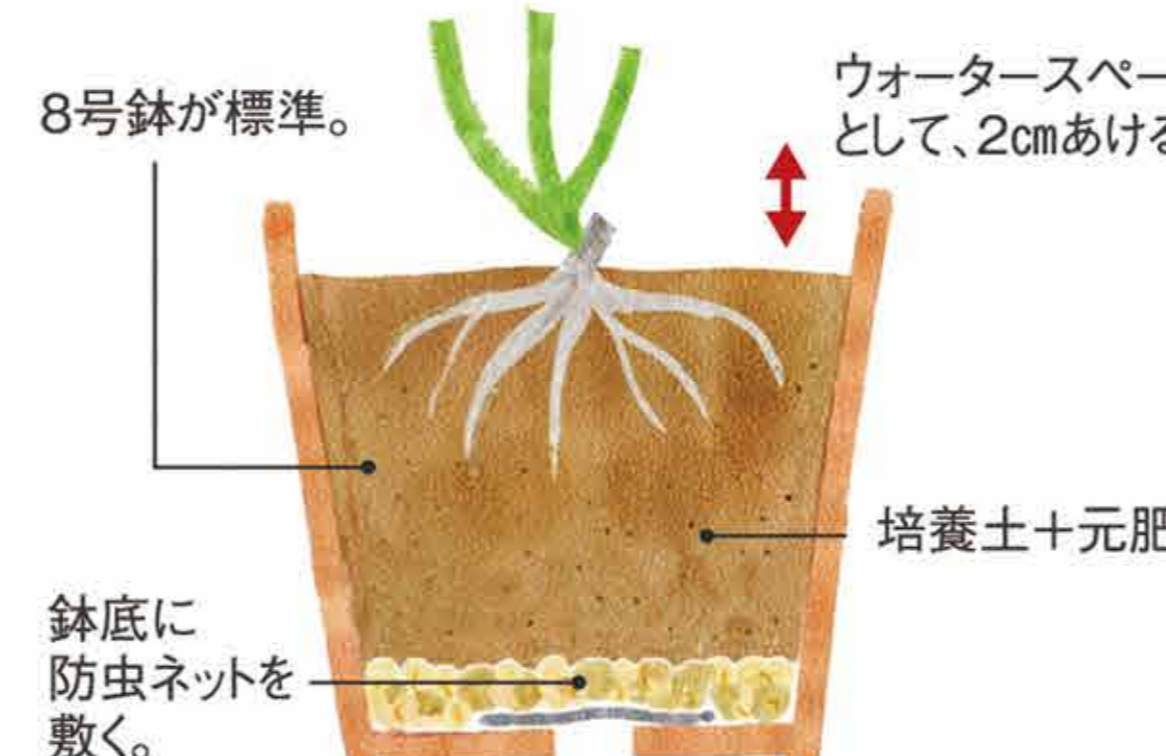


鉢への大苗の植え付け

用意する鉢は、根が収まるくらいを目安に、高さや幅が同じくらいのものか、やや深めのものを選びます。標準は8号(直径約24cm)ですが、2~3年植え替えない場合は10号でもよいでしょう。

鉢底穴に防虫ネットを敷き、鉢底土を入れます。肥料は「元肥用」と表示された有機質肥料か、粒状の緩効性化成肥料を使用し、最初から培養土に混ぜておきます。使用する土は市販のバラ用「培養土」でよいでしょう。中央を高め盛って土を入れ、苗の根を広げて植え付けます。両手の指を鉢の周りに差し込んで、土と根が密着するように土をしっかりと詰め込みます。

最後に、鉢底から流れ出るくらい、水をたっぷりと与えます。その後は霜や乾いた風の当たらない場所で管理。水やりは10日に1回くらいでよく、休眠期なのでやりすぎないようにしましょう。3月の芽出しのころから日の当たる場所に出し、徐々に水やりの回数を増やします。



冬剪定

深めの剪定か、浅めの剪定かは種類と目的に応じて行う

株姿を整えて健康に育て、春に大きな花やたくさんのお花を咲かせるために、バラが休眠している冬の間には剪定を行います。タイミングは平地なら2月中旬までで、芽の吹き始める前までなら行ってもかまいません。しかし、最近では冬でも暖かくなってきているので、あまりに早く剪定するとそこから芽が伸びて、まだ弱い芽が遅霜の害にあうこともあるので、地域ごとにあった時期に行いましょう。

ハイブリッドティやフロリアンダなど木立性品種は深めの剪定、シュラブは中くらい、オールドローズなどはほとんど不要、というふうに、系統ごとによる剪定方法の違いもありますが、「どのような姿に仕立てたいか」という目的によっても違い

ます。例えば、バラ花壇で木立性タイプを植えていて低く仕立てたい場合は、特に深く剪定します。コンパクトな鉢植えにしたい場合も同様です。その場合は株元の下の方からよい芽を探して、そのすぐ上で剪定します。高さはひざより下くらいが目安です。すると春には高さ約60cm以下で花が揃って咲きます。

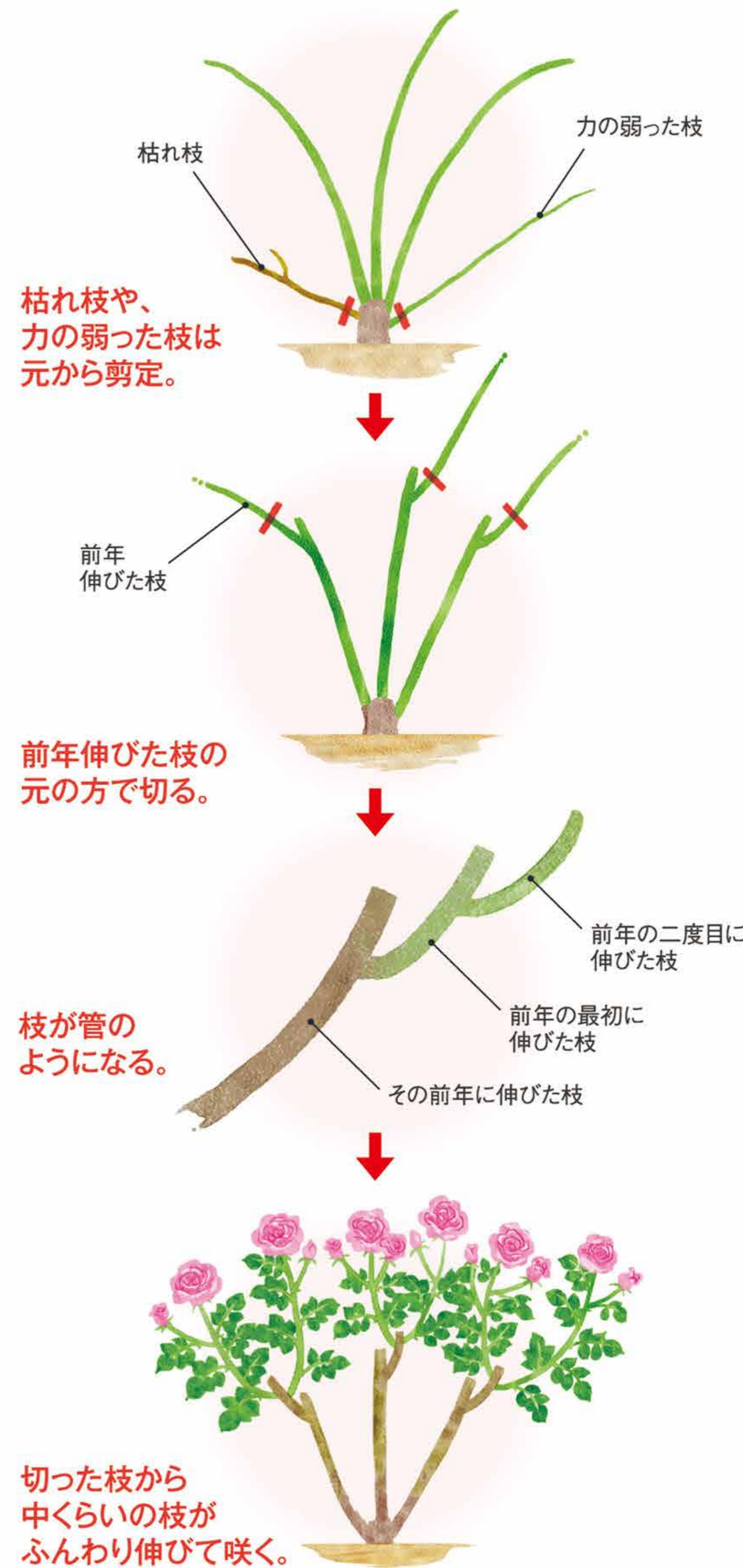
同様の考え方で、枝を更新するための株元ぎりぎりの剪定も、休眠しているこの時期であれば、春に新しく太い枝を出させることができます。ただし株が元気であることが条件です。またあまり遅い時期の剪定では、なかなか芽が伸びてきません。

一般に①太い枝を切ると太い枝が出る、②細い枝からは細い枝しか出ない、という原則があります。また花をつける新しい枝の太さは、系統によっても品種によっても違います。この仕組みを理解しているいろいろ試してみると、バラ栽培はとてもおもしろくなります。

栽培のポイント冬剪定

ボーダーの中に植えたシュラブタイプで、木の形ができた株の冬剪定

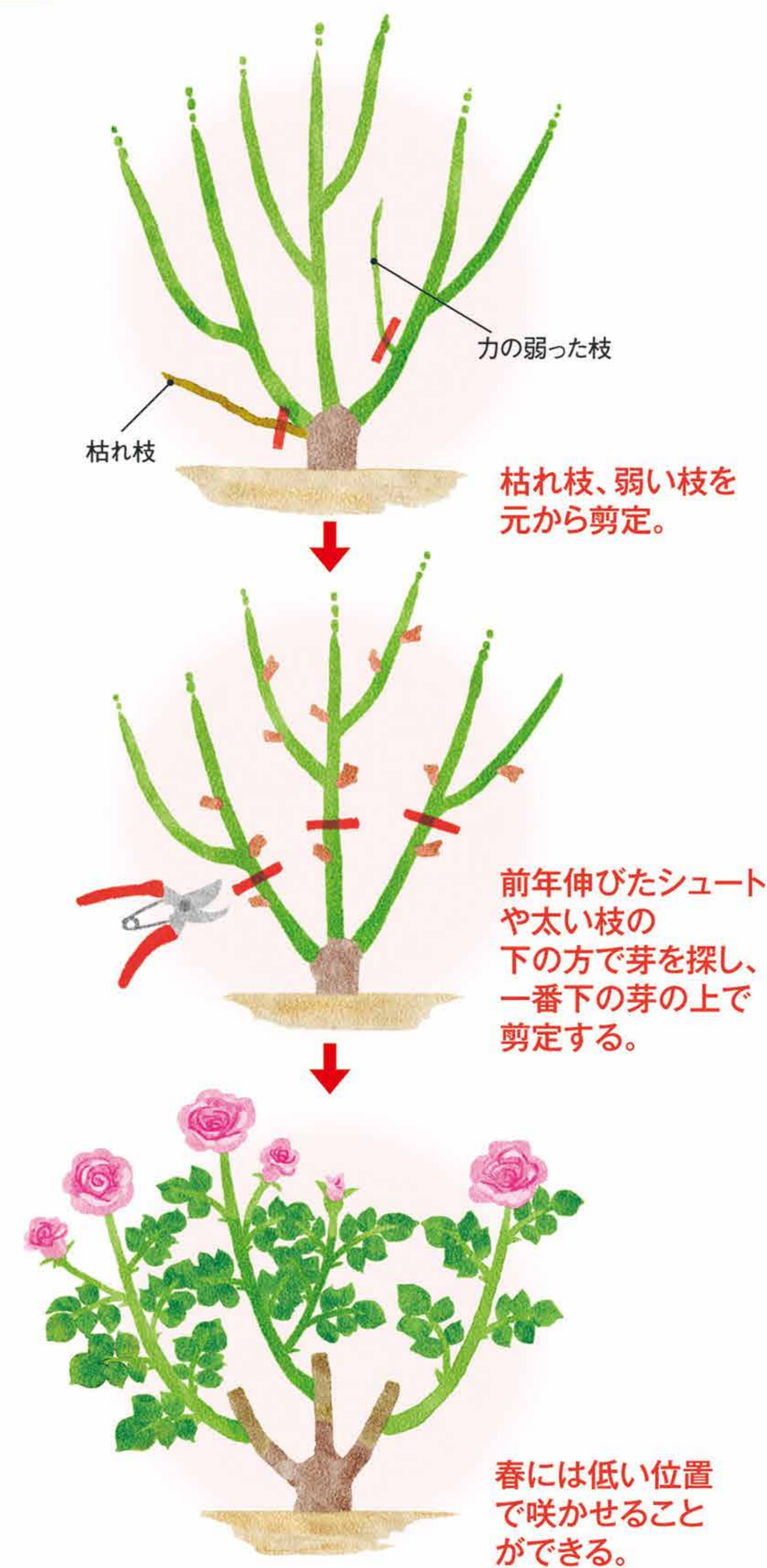
深く切りすぎると、春以降に株の姿が乱れるだけでなく、春になっても枝が伸びず、草花の中に埋もれてしまうこともあります。株姿全体を見て、あまり枝を伸ばしすぎないような剪定を行います。



株丈を低く仕立てるためのバラ花壇木立性バラの冬剪定

次の条件の株であれば、可能です。

- 時期 休眠期(12月~翌年2月中旬)
- 種類 ハイブリッドティやフロリアンダの枝が太めのタイプ。
- 株 植えて数年の若い株で、順調に生育している株。



栽培暦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
生育状況	休眠期		生育期			生育期および開花期					休眠期		
水やり	地植え							土の乾燥が激しい時に与える					
	鉢植え	乾いたら水やり											
施肥	地植え	12月~1月に1回置肥		1回置肥			1回置肥		1回置肥		12月~1月に1回置肥		
	鉢植え	1回置肥		生育に応じ液肥	1回置肥			生育に応じ液肥	1回置肥	生育に応じ液肥		1回置肥	
植え付け	秋大苗・鉢苗の植え付け			新苗の植え付け						秋大苗・鉢苗の植え付け			
植え替え・鉢増し	植え替え		鉢増し(根はあまり崩さない)						植え替え				
管理	冬剪定												
	誘引(つるバラの場合)			花がら摘み					夏剪定		花がら摘み		